



庵原良司

鈴木圭

ジャズ・プレイヤーからの絶大な支持に加え、幅広い音楽ジャンルの要求に応える楽器として多くのサクソ奏者に愛用されるヤマハ82Z。その82Zのラインナップに、ヴィンテージテイストのフィニッシュとなる「アンバーラッカー」が新たに加わった。その発売を記念し、スタジオシーンからビッグバンドと幅広く活躍する庵原良司と鈴木圭の両氏に、従来からラインナップされている仕上げモデルとの吹き比べを依頼した。今回の試奏ではアルトを庵原氏が、テナーを鈴木氏が担当。仕事の現場でも一緒になることが普段から多いという二人ならではの軽妙な掛け合いから、新たなフィニッシュの特長が浮かび上がってきた。

文：渡部祐也

写真：井村重人（アーニーズ・スタジオ）

協力：ヤマハ株式会社

株式会社ヤマハミュージックジャパン

特別企画

Yamaha YAS-82Z & YTS-82Z

バリエーション豊かな仕上げにより、数多くのプレイヤーを魅了するハイパフォーマンスモデル
カスタムサクソフォンYAS-82Z & YTS-82Z 仕上げ違い吹き比べ



【本日の試奏楽器】

[Alto] ゴールドラッカー、アンバーラッカー、ブラックラッカー、銀メッキ、金メッキ、アンラッカー

[Tenor] ゴールドラッカー、アンバーラッカー、ブラックラッカー、銀メッキ、アンラッカー

ヤマハYAS-82Z

【調子】E^b [仕上げ] ゴールドラッカー
【付属キイ】 High F[#]、フロントF [ベル] 1枚取り
【付属品】 ネック：AV1、マウスピース：AS-4CM
【希望小売価格】 ¥517,000 (税込)

ヤマハYAS-82ZA (アンバーラッカー仕上げモデル) ¥572,000 (税込)

ヤマハYAS-82ZS (銀メッキ仕上げモデル) ¥572,000 (税込)

ヤマハYAS-82ZUL (アンラッカー仕上げモデル) ¥572,000 (税込)

ヤマハYAS-82ZB (ブラックラッカー仕上げモデル) ¥572,000 (税込)

ヤマハYAS-82ZG (金メッキ仕上げモデル) ¥1,287,000 (税込)

ヤマハYTS-82Z

【調子】B^b [仕上げ] ゴールドラッカー
【付属キイ】 High F[#]、フロントF [ベル] 1枚取り
【付属品】 ネック：TV1、マウスピース：TS-4CM
【希望小売価格】 ¥594,000 (税込)

ヤマハYTS-82ZA (アンバーラッカー仕上げモデル) ¥671,000 (税込)

ヤマハYTS-82ZS (銀メッキ仕上げモデル) ¥671,000 (税込)

ヤマハYTS-82ZUL (アンラッカー仕上げモデル) ¥671,000 (税込)

ヤマハYTS-82ZB (ブラックラッカー仕上げモデル) ¥671,000 (税込)

ヤマハYTS-82ZG (金メッキ仕上げモデル) ¥1,584,000 (税込)



それぞれの仕上げに持っているイメージとは？

—— 試奏に入る前に、まずはお二人のご関係を教えていただけますか。

庵原良司 (以下庵原) 圭さんは早稲田大学のビッグバンドHigh Society Orchestraの一つ先輩です。

鈴木圭 (以下鈴木) 私が引退した時に庵原くんが他のサークルから勧誘されたんですよ。

庵原 あ、そうだったんですか。私は誘われただけなので知りませんでした。

鈴木 入れ違いだったので、その当時は一緒に演奏はしていません。

庵原 そうですね。今のほうが仕事でよく会います。

鈴木 エリック・ミヤシロさんが率いるBlue Note Tokyo All-Star Jazz Orchestraや、ここ数年レコード大賞の演奏もこの組み合わせでやって

います。

庵原 今日は私がアルトですが、仕事によっては圭さんがアルトで私がテナーということもある。

鈴木 得意ジャンルが微妙に違ったりするからな。

—— お二人は本日試奏する仕上げに関して、それぞれどのようなイメージをお持ちですか。

庵原 ゴールドラッカーが一番オーソドックスですよな。

鈴木 そうですね、ナチュラルというか。同じラッカーでもブラックラッカーは少し響きが締まってマットになる印象があります。

庵原 メッキは銀も金もより押しが強くなる印象です。金はより真ん中に寄っている強さなのに対して、銀は倍音成分がよりハイに寄って

いる感覚。

鈴木 そうだね、私は最初の楽器から銀だったのでその感覚がベースになっているところがあるけれど、確かに銀はチリチリした成分が強いのでマイクに乗せると存在感がより強くなりますね。

庵原 逆に生音だと金メッキのほうが強い印象があります。アンラッカーは、楽器によっては横では聞こえても前では聞こえないことがあったりしますね。

鈴木 銀メッキでは強く出るハイの倍音成分がアンラッカーは逆に出づらいつ印象があります。アンバーラッカーはヴィンテージ風の見た目がかっこよく仕上がっていますが、実際にどんな音が出るのか楽しみです。

—— では早速、試奏をお願いいたします。

Alto Saxophone

アルトサクソ ゴールドラッカー仕上げ (庵原さん試奏)

写真 01

庵原 普通にいいですね！

鈴木 すごくプレーンで、癖がないね。

庵原 今までゴールドラッカーの楽器にはメッキの楽器と比べて少し物足りなさを感じていたけれど、この82Zのゴールドラッカーはこのまま現場でも使っていける強さを感じます。弱奏でも音色が管内にこもらずにしっかり開いてくれるのが好印象。

鈴木 確かにこっちで聞いていても、やさしく吹いた時に、ヒーッとというハイの成分がしっかり残っている。

庵原 息をある程度入れるとある地点からバコッと鳴るような楽器が多いけれど、これはPからシームレスに音色を変えずに音量を変化させられるのでいいですね。ライトな吹奏感ながらカスタムモデル(1枚取りベル、カスタム材採用)のリッチな音質を両立しているように感じます。オールジャンルに使える楽器だね。

鈴木 お気に入りだね、買っちゃう？

庵原 ではとりあえずこれ1台よろしく！(笑)



写真 01

アルトサクソ アンバーラッカー仕上げ (庵原さん試奏)

写真 02

庵原 なるほど！ 見た目通りの音というか、チリチリしたハイの成分が少し収まりますね。あと、彫刻の美しさを保つためにベルの部分がラッカー+トップコートで仕上げているということで、音が横に広がらず前に行っている印象があります。

鈴木 音の身が濃いというか、ミッドがすごく強いね。

庵原 上の成分がない分、強調されているのかもね。

鈴木 ここで聞いていると耳あたりがすごくいい。

オーソドックスなジャズでやるのにちょうど良さそう。

庵原 ブライトすぎないし、音量のコントロールも自在にできるから最適だね。個人的なヤマハの印象よりも明るい音色で、いい意味で下の倍音が出すぎない感じです。楽器によっては自分でがんばって明るい音色に持っていけないといけませんが、この楽器は楽ですね。しっかり押せるので吹奏感がいいし、表現もしやすく感じました。



写真 02

アルトサクソ ブラックラッカー仕上げ (庵原さん試奏)

写真 03

庵原 おや、見た目に反して音はタイトでマットな印象ですね。

鈴木 弱く吹くと静かで柔らかい音に聞こえるね。ブライトな成分はあるけれど、そのさらに上のエアリーな成分はカットされている。

庵原 メタルマウスピースを使っている奏者は、マウスピース側が持っている高い倍音成分を楽器が

上手く収めてくれるかもしれないね。

鈴木 あとはクラシック奏者が使うのも意外といいかもしれない。

庵原 そうそう、変に悪目立ちしない、ノイズの少ない音を出せると思います。見た目は一番派手で不良そうですが、意外にいい子かもしれません(笑)。



写真 03

アルトサクソ 銀メッキ仕上げ (庵原さん試奏)

写真 04

庵原 銀メッキはヤマハの875シリーズを持っています。やはり強い音が出ますね。ただ、予想以上に倍音成分がバランスよく含まれていて、コアの部分とハイの成分だけが突出するようなことはないですね。そして弱音でも響きが閉じずに鳴ってくれます。銀メッキは必要とされるパワーが強い分、数年かけて吹き込んで育てるようなイメージがあったけれど、これはすぐに使えるし、その上で育てがいもあるという感じですね。

鈴木 横にいとハイの成分が意外と聞こえないけれど、前にはすごく飛んでいる。

庵原 指向性が強いんだ。

鈴木 だから意外に吹いている本人は鳴っていないように聞こえることもあるんです。私たちは銀メッキの楽器を吹き慣れているので補正して聞いているところはあと思っています。

庵原 その分、奏者側よりも聞き手側にすごくリッチに聞こえているんでしょうね。



写真 04



Profile 庵原良司

1979年9月3日福岡県生まれ、大阪府茨木市に3歳ごろから移り住み、ピアノを始める。中学より神奈川県川崎市に移り吹奏楽部でクラリネットを担当。早稲田大学入学を機にアルトサクソを吹くようになり、大学三年の時からテナーサクソも吹き始める。早稲田大学 High Society Orchestra でヤマトビッグバンド ジャズ コンテストに出場し最優秀ソリスト賞を受賞。卒業を機にプロとして活動を始める。主な活動歴として、マンハッタン・トランスファー、SMAP、Kinki Kids、aiko、ナオトインティライミ、CHARA、ゴスペラーズ、EXILE、天童よしみ、渡辺美里、鈴木聖美、布袋寅泰などのツアーに参加。自身のバンド、オレバンドで5枚のオリジナルアルバムを発売。そのほか様々なビッグバンドにも参加。

【使用楽器】(アルト)
サクソ本体:YAS-875EX 改(ピンクゴールドメッキ仕上げ)
マウスピース:レトロリバイバル 5
リガチャー:セルマー
リード:バンドーレン Java 3 1/2



写真 05

アルトサクソ 金メッキ仕上げ (庵原さん試奏)

写真 05

庵原 メッキならではの音の強さとナチュラルさが両立していますね。

鈴木 聞いているとやっぱりブーストがかかっている感じがあるね。

庵原 下の倍音が鳴りすぎないので、音がだぶつかずにすっきりとしている印象もあります。だから聞きやすさもある。あとはピアノとデュオでやるか、ロック・バンドで強く吹くかという環境の違いでも適した仕上げは変わってくるでしょうね。

鈴木 録音でマイクに入れるだけならラッカーが楽

ですが、後から録った音を聞くとメッキのほうがとてもいい音で入っているということがあったりしますね。

庵原 メッキの場合は逆に奏者ががんばりすぎて耳障りになってしまうこともあるので注意が必要だね。あと、そこそこ楽器に息を預けられるので、音程感が取りやすいです。ある程度の圧力をかける必要はありますが、例えば低い音が鳴るのに高音が安定しないようなパターンの奏者は、メッキの楽器を試してみたり、リードの番手を上げると安定するということもあるでしょうね。



写真 06

アルトサクソ アンラッカー仕上げ (庵原さん試奏)

写真 06

庵原 お、予想と違うぞ！ 正直にいうともっと横に音が散ると思っていたけれど、ネックあたりの抵抗感が感じられるのでしっかり押せる感覚があります。弱音もアンラッカーならではの表情を出せますね。フィル・ウッズが晩年この仕上げを愛用していたのも頷けます。上の倍音はラッカーやメッキの楽器よりはカットされるので、音色感は個人的かも。

鈴木 でもとてもピュアな音色だね。そして粒立ち

よく吹くとすごくいい。

庵原 確かに、なだらかにも吹けるし、発音すればしっかり反映されるので、こちらのやりたいことを全部拾ってくれる。そういうヴィンテージの楽器のような面がありつつも、ヤマハらしく音程はしっかりしているのがうれしい。いつまでも吹いていたくなります。コンボジャズなどのアコースティックな場面で吹くにはとてもいい仕上げだと思います。

Tenor Saxophone



写真 07

テナーサクソ ゴールドラッカー仕上げ (鈴木さん試奏)

写真 07

鈴木 とてもバランスがいいですね。上の倍音のピンと管体に響く部分がしっかり出ていますし、それでいて変に強調されたり膨らんでいる成分がない。

庵原 アルトでも感じたけれどバランスいいよね。企業努力なのかな。

鈴木 適度に吹奏感が軽い。軽いというネガティブなイメージを持つ方もいるかもしれないですが、決して悪い意味ではないです。こちらの言いたい

ことが楽器にそのまま伝わるので、表現をする上での道具としてもとてもいいです。

庵原 我々は一人で吹くのは試奏の時くらいで、あとは必ず誰かとアンサンブルしています。楽器単体でいい音でも、他の楽器と同じ帯域に音の成分があると意外とマスキングされてしまうことがあるんです。その意味で、このゴールドラッカーはセッションでも埋もれなさそうだと思います。



写真 08

テナーサクソ アンバーラッカー仕上げ (鈴木さん試奏)

写真 08

鈴木 お、ゴールドラッカーと全然違う！

庵原 本当だね、このままジャズクラブに行ってもそのまま吹ける感じだね。

鈴木 音の粒立ちがはっきりしています。ラッカーに比べて重さではありますが、その分こちらが寄りかかった時に音色の濃い成分が輪郭側に寄ってしまい、コアの密度が薄く聞こえるのではなく、全体で受け止めて向こう側に伝えてくれるような安心感があります。

庵原 音をベルの先でまもめてくれている感じというか。

鈴木 クレッシェンドしても音色が一旦閉じて潰れ

てしまうところがなくて、そのままシームレスに音色が開いてくれるのがいいですね。

庵原 アルトとアンサンブルしてみても、ちゃんと音に存在感がありますね。倍音が消し合わないというか。

鈴木 上の倍音成分がよく出ていて、その下の成分がほんの少しだけタイトになっているので、2管でも問題ないんでしょうね。

庵原 圭さんこれ向いていると思う。嬉しそうに吹いているし(笑)。

鈴木 手持ちのゴールドラッカーと置き換えもありか……？



Profile 鈴木 圭

1978年、静岡県掛川市出身。3歳よりピアノ、中学入学後にクラシックサクソスを学びながら、フュージョン、ポップスのバンドなどで活動。東京農工大学入学後、国際基督教大学 Modern Music Society、早稲田大学 High Society Orchestra に在籍。在学中よりプロとして音楽活動を始め、2002年、宮岡利之と New Herd への在籍を皮切りに、現在も、Blue Note Tokyo All-Star Jazz Orchestra、Tokyo Big Band、横間美帆 m. big band など、数多くのビッグバンドに参加。木管楽器をはじめ各種楽器を演奏するセッションプレイヤーとして、Friendly Fires、Mr.Children、綾戸智恵、香取慎吾、桑田佳祐、星野源、福山雅治、松下奈緒、松田聖子、レキシなどのコンサート、録音に参加。

[使用楽器] (テナー)
サクソス本体: YTS-822S (第二世代・E1ネック)
マウスピース: 竹野昌邦オリジナル ☆
リガチャー: ポストンサクソスショップ 銀メッキ
リード: ダダリオ ラ・ボーズ MH

テナーサクソ ブラックラッカー仕上げ (鈴木さん試奏)

写真 09

鈴木 見た目、迫力ありますね。

庵原 テナーは大きいから余計にそう感じる。

鈴木 なるほど、確かに庵原君のいうとおり一番上の成分は少ないですね。今日使っているマウスピースは強めの、上の成分がよく出るマウスピースなので、組み合わせとしてはちょうどいいかもしれない。

庵原 そうそう。音が開くようなマウスピースを持っていてバランスを取りたい人が、クラシックのようにそもそも音を聞きたくない奏者に向いていると思う。

鈴木 いまの楽器で音がビャーっと開いてしま

人は、この楽器ならいい感じに落ち着かせてくれるかもしれない。試す価値はあると思います。

庵原 アルトの試奏ではちょっとマツな音質でしたが、こちらのセッティングとの相性もあったのかも。今はクリアに聞こえていて、他の楽器とセッションすると良さそうな気がする。

鈴木 デュコフとか音色が少し開いていてパワーで押せるマウスピースとの相性が良さそうです。この楽器の場合はあまりしんどくないセッティングとあわせると良さそうだね。



写真 09

テナーサクソ 銀メッキ仕上げ (鈴木さん試奏)

写真 10

庵原 かなり長く吹いてますけれど、これ、圭さんが何のチェックしているかわかります？ この楽器を仕事で使えるか、本気のチェックですよこれ(笑)。

鈴木 やっぱり自分の楽器との違いが気になってしまうよね(笑)。いま所持している楽器とはネックが違うんです。この試奏品はV1ネックで、低音でも音の粒立ちがはっきりしますね。

庵原 流石に銀メッキの楽器を吹き慣れている感じはあるね。

鈴木 吹きすぎてしまうと上の倍音が痛い音に

なってしまうと体感でわかっているからね。

庵原 銀メッキはやっぱり流石に音が強いですね。アルトと2本のアンサンブルで演奏してみても、ちゃんとテナーの存在感がある音がしますよね。

鈴木 あと、銀メッキの楽器は低音のサブトーンの反応がとても速いというメリットもあります。立ち上がりがいいので使いやすいです。

庵原 すっきりした音で立ち上がりもいいね。この楽器、お買い上げです！（笑）



写真 10

テナーサクソ アンラッカー仕上げ (鈴木さん試奏)

写真 11

鈴木 吹いていて楽しいな、ずっとこの小さめの音量で吹いていたい。

庵原 でも、吹き込んでみてもすごくいい音してますよ。銀好きのあなたには不本意かもしれませんが(笑)。

鈴木 (楽器の抵抗感に息の圧力を掛けて) 寄りかかれなにかかかっていたけれど、意外としっかり寄りかかれるので吹きやすい。

庵原 弱音から強奏までシームレスに行き来できるのが一番いいね。

鈴木 サイドキィを使う高音でも音質が変わらない。軽い吹奏感でちゃんと繋がるし、開かせたい

時は音色がしっかり開いてくれる。

庵原 ただ、こうやって横で私がアルトを吹くと、急に存在感がなくなってしまふ。

鈴木 低い倍音の成分はいるけれど、トランペットとかと一緒に吹いても沈んだように聞こえてしまうかもね。

庵原 お互いアンラッカーの楽器だったらアンサンブルは成立するはずですよ。

鈴木 やっぱりアコースティックの生音が良さそうですね。ソリストや、一人で吹くことが多い奏者におすすめしたいです。



写真 11

アンバーラッカー仕上げは現代のヴィンテージサクソ

——試奏の総評をお願いします。

鈴木 アンバーラッカーは、見た目通りいい意味でヴィンテージ感がありました。ヤマハさんの狙い通りだと思います。

庵原 ゴールドラッカーよりも少しマツな音色感で、でもちゃんとハイの成分もあるので吹きやすい。

鈴木 吹奏感の軽さも適度にあって、音の粒立ちもとても良かったです。現代のハイスペックな“ヴィンテージサクソ”ですね。

庵原 あと、アンラッカーはイメージと違ったね。

鈴木 そうだね、違った。

庵原 我々の仕事で、他の楽器とアンサンブルをすることを考えると難しいけれど、ジャズだけならこれを選ぶかも。

鈴木 読者の皆様は普段の我々とは違い、マイクなど音響装置に頼らない環境で吹くことが多いと思うので、吹いてみる価値は十分にあると思います。

庵原 ジャズセッションにこの楽器を持って現れたら

絶対カッコいいし、そういう場ではどうしても耳障りな音を出してしまいがちですけど、この楽器はその成分が少ないのでいいと思います。

——最後に、自分で吹いて気に入った楽器と、お互いに相手へオススメな楽器を教えてください。

庵原 仕事で選ぶなら金メッキ、もしジャズクラブに通うおじさんだったとすればアンラッカーかな。圭さんにはアンバーラッカーか、先ほど試奏した銀をいま持っている銀の楽器と入れ替えるのをおすすめします(笑)。

鈴木 個人的にはアンバーラッカーですね。生徒さんなどに勧めるなら、アンラッカーもぜひ試してほしいと思いますが、結局ゴールドラッカーに落ち着くのもかもしれません。庵原さんは金メッキが良かったな。粒がしっかり聞こえるし、弱音も吹きやすそうだったよ。

庵原 お、カップル成立(笑)。

